



# シミュレーション 看護教育速報



グループディスカッションをファシリテートする阿部幸恵教授

## 県看護協会主導～シミュレーションで看護職者のスキルアップを

看護実践力を向上させるための有力な教育手法としてシミュレーション教育が着実に広がりを見せる中、次なる課題が浮かび上がってきています。それは「シミュレーション教育におけるファシリテータの育成」です。

シミュレータを最大限に活用するための教育プログラムをどのように構築すればよいのか？ シミュレーション教育を個々の医療施設・看護教育内容に適した形で統合するためには？ そしてシミュレーション教育実践において、学習者にとって真に効果的な結果をもたらす教育的な関わりとは？―看護教育の現場からは教員そして研修担当者の切実な声が聞かれます。

沖縄では県全体の看護実践能力を向上させるために沖縄県看護協会が率先してシミュレーション教育環境を整備し、研修会の開催やシミュレータの無償貸出、実習室(技術トレーニング室)の開放など、県下の看護職者にシミュレーションによる学びの場を提供しています。さらに平成24年は看護実践力向上支援事業の一環として「シミュレーション教育指導者養成研修」を3回実施、沖縄県内のシミュレーション看護教育の裾野を広げる活動に着手しています。

琉球大学医学部附属病院より地域医療教育開発講座の阿部幸恵教授を招いて行われた5月開催の研修の様子とともに、沖縄県看護協会教育課(研修担当) 豊見本たづ子さんのシミュレーション教育とファシリテータ育成にかける思いを取材しました。

公益社団法人  
沖縄県  
看護協会

所在地：沖縄県島尻郡南風原町字与那覇460番地  
TEL(098) 888-0110  
Email: <http://www.okinawa.or.jp/index.jsp>  
\*平成23年12月に新看護研修センターがオープン予定

## Report

# 沖縄から発信される世界水準の 医療シミュレーション教育 おきなわクリニカルシミュレーションセンター／ちゅらSim

2012年3月25日、琉球大学医学部附属病院の敷地内に、最新鋭の医療シミュレーションセンターがオープンした。その名はおきなわクリニカルシミュレーションセンター。美ら島(ちゅらしま)にあるシミュレーションセンターということで、「ちゅらSim」という愛称がつけられた。

国内最大規模を誇る総面積約2,250平方メートル、3階建ての堂々たる施設内は大きく3つのゾーンに分かれている。フロアごとにそれぞれ異なる医療環境が再現され、そこはまるで真新しい病院そのものである。各シミュレーションルームにはレールダ社SimMan3Gやナーシングアンをはじめ多くの患者シミュレータおよびタスクトレーナーが整然

と並び、基礎教育から生涯教育に至るまで、県下のあらゆる医療職種、あらゆるレベルの学習者を待ち受ける。

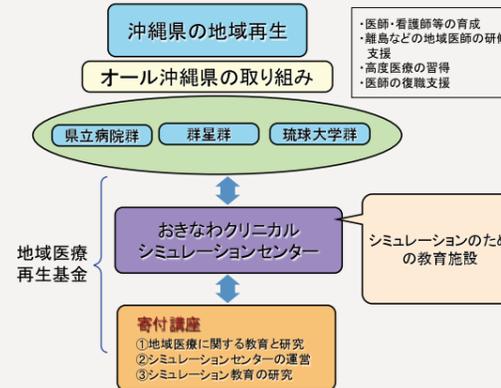
ちゅらSimはオープン前の昨年度より継続してハワイ大学医学部シミュレーションセンター「SimTiki」との教育者間交流を行っており、常にグローバルスタンダードを意識しつつも国内の医療教育ニーズに見合ったシミュレーショントレーニングプログラムを開発・実施している。また今後は県外からの学習者のみならずアジア各国からの研修生の受け入れ、そして海外施設との連携など、日本におけるシミュレーション医療教育の拠点かつ情報発信源として大きな役割を担っていくことになるであろう。

### ちゅらSimの基本的な3つのゾーン



1. クリニカルスキルの基本を学ぶゾーン 2. 救急医療を学ぶゾーン 3. 専門スキルを学ぶゾーン

### センター概要



■おきなわクリニカルシミュレーションセンター <http://okinawa-clinical-sim.org/>

所在地：沖縄県中頭郡西原町字上原207番地  
Mail: [okinawa.sim.center@gmail.com](mailto:okinawa.sim.center@gmail.com)  
医療者ガイド付きの施設見学を定期的にも実施している。施設見学や現在開催されているコーススケジュール、施設の利用方法などはホームページを参照。

発行：レールダル メディカル ジャパン株式会社

〒102-0082 東京都千代田区一番町8 一番町FSビル  
TEL:03-3222-8090 FAX:03-3222-8091 [www.laerdal.com](http://www.laerdal.com)  
カスタマーサービス ☎0120-309-060





講義&グループワーク

効果的な  
ファシリテーションについて

ファシリテータ養成のために阿部教授が制作した教材(動画)を見ながら、シミュレーションの導入部分/シミュレーション中の関わり/効果的なディブリーフィング方法に関してグループごとにディスカッションが行われます。また阿部教授からは「学習者がより学びを深めるためにファシリテータはどのような言葉や態度で関わるべきか」という点を中心に、具体的な講義が行われます。



ファシリテータの関わりによりグループディスカッションが促進される

グループワーク

ファシリテータ体験

研修の仕上げは受講者によるファシリテータ体験です。提示されたシミュレーションの場面やシナリオに基づいて対象者への学習目標を絞り込み、ファシリテーションの方法を考えます。手順に沿いながらのタスクであっても、与えられた材料をグループならではのシナリオに再構成することに、どのグループも四苦八苦。しかし最終的には、自らが組み立てた指導法で他のグループを対象に指導の一連を体験することができ、参加者はみな大きな学びを得ていました。



研修全体風景

研修名	シミュレーション教育指導者養成研修 研修1: シミュレーション教育の基本的な指導方法
期間	1.5日
定員	30名
参加条件	施設の教育担当看護師長 教育委員等
ねらい	看護職者の実践能力向上を図るため、教育担当責任者がシミュレーション教育の企画・運営等に必要能力を習得する
研修内容	1. シミュレーション教育とは 2. シミュレーション教育の実際 3. 効果的な指導をするためには
講師	琉球大学医学部附属病院 地域医療教育開発講座 教授 阿部幸恵

Q シミュレーション教育に注力するきっかけとなったのは?

A かねてより沖縄では新人看護師の離職率の高さが深刻な問題でした。それを是正するための方策の一つとして導入を進めたのがシミュレーション教育です。特に対象としたのが、シミュレータ等の教材を揃えるのが難しく、大病院に比べて教育機会が不十分となりやすい中小規模の医療施設に勤務する新人看護職員でした。

Q シミュレーション教育を導入した結果は?

A 研修受講者へのアンケートでは、「自らのスキルに自信を持てるようになった」という回答が得られ、この結果を中堅層の看護職者のレベルアップのためにも応用するべく、高性能シミュレータの導入を検討しました。折しも新人看護職員臨床研修の努力義務化が始まり、また地域医療再生基金での高性能シミュレータ購入が実現したことで「シミュレーション看護研修」への機運がますます盛り上がっています。

Q ファシリテータ育成のための研修を企画した理由は?

A 所有するシミュレータを継続的・効率的に稼働させるため、中性能までのシミュレータは県内の看護施設に無償貸出をし、高性能のものは今後、県看護協会の研修施設で自由に活用してもらう予定です。そのためにはシミュレータを使いこなす、かつシミュレーション教育の指導ができるファシリテータを育成することが必須となります。この課題を琉球大学医学部附属病院の阿部幸恵教授にご相談し、ご協力を得て、今回の研修が実現しました。

研修担当者へのQ&A

県下にシミュレーション研修を  
広げたい



豊見本たづ子 さん  
沖縄県看護協会教育課

Q 今後の展望は?

A 沖縄県看護協会では2013年9月頃に新看護研修センターが完成、その年の12月までに移転する予定です。新しい施設では今まで以上にシミュレーションを始めとした研修プログラムに力を入れていきます。高性能シミュレータの活用という点においては、県下の認定・専門看護師の技術レベルアップのために、今後は各科の専門医や集中治療領域の看護師とのコラボレーションを図っていければ、と考えています。

講義  
シミュレーション教育の  
基本的な指導方法

講義の中で受講者は、医療専門職のための教育方法論としてシミュレーション教育が有効である理由を、成人教育理論や時代背景そして現代の医療ニーズの面などから論理的に学びます。また「学びの主体は学習者である」という観点より、従来の教授法とシミュレーションにおける教授法との違いが具体例で示されます。看護師であり児童学博士でもある阿部幸恵教授の講義は、看護職として持つべき哲学と教育者としてあるべき姿勢を明確に示唆するもので、受講者にシミュレーション教育におけるファシリテータとしての心構えを伝えるものです。

シミュレーション  
学習者体験

講義の後は2つの症例(①病棟での急変②腹痛)が提示され、受講者はグループごとに「新人看護師役」「観察者役」「指導者役」を体験します。シミュレーション中に学習者が感じる緊張や照れを体感するとともに、効果的なシミュレーションのための雰囲気作り、指導のポイントやタイミングなどを振り返ります。



「腹痛」シナリオ：腹部のフィジカルアセスメントについて振り返る

シミュレータの  
オリエンテーション

シミュレーションを行う上では、使用するシミュレータの機能や設定を学習者に対して事前に説明しておくことが非常に重要となります。この日受講者に紹介されたのは、沖縄県看護協会が所有するレールタル社SimMan3Gとナーシングアン。SimMan3Gは完全ワイヤレスでありながら、非常にリアルな生体反応を再現する患者シミュレータです。また看護トレーニング用マネキンナーシングアンにはレールタル社の新製品SimPadが併用され、マネキンをワイヤレス操作しながら専用モニターにバイタルサインを投影する使用方法が説明されました。



SimPadでナーシングアンと患者モニタを操作する

実際の  
シミュレーション風景(動画)を観察

阿部教授が実施したシミュレーション看護教育の映像がいくつか紹介されます。「術後の観察場面(基礎教育の授業)」と「多重課題トレーニング(新人看護師対象)」ではシミュレーションのセッティングとディブリーフィングの方法を、また「病棟急変対応(新人および3年目看護師対象)」では同一のシミュレーションシナリオを用いながら経験年数の異なる看護師に対して教育アプローチを行う方法が説明されます。



SimPad®

シミュレーションを簡単に

直感的に操作できる大型タッチスクリーンを搭載。手に取ってすぐに使い始めることができます。インストラクターは限られた時間を、教育ツールの使い方を覚えるためではなく実際の教育に費やすことができます。

<http://www.laerdal.com/jp/SimPad>